

133
132

明治二十三年十月十七日

海南の尚友

外山人安達常正手録

禁賣買

205093-000-3

特67-704

海南の尚友

安達 常正 / 著

M23

EDV-0096



本書の正誤

頁	三	三	五	五	七	八
行	三	〇	七	九	三	五
誤	春	杯	ゑ	ゑ	白	され福されし福
正	春	杯	へ	え	自	

海南の尙友

外山人安達常正 手録



二年四月余始承乏於高知縣尋常師範學校教諭也短才學少
 經驗未嘗有小補於斯道豈得無不極然乎雖然幸有職員諸君教示補翼
 之厚與徒諸子好學研行之深自謂是當致身之地也常以執其務爲無
 暇快樂故雖有微恙未會一日休其業矣今茲七月劇患軟脚病不能自起
 者五十有餘日醫曰是風土之所令然莫復奈之何唯有轉地療養之一術
 耳既而十月俄有命將轉任於廣島縣是雖不無或山憂余病之故一朝去
 此地豈得無眷戀之情乎且當其解纜之前職員諸君開雅宴男女生徒諸
 子各別設舟遊以送別加旃有以寫真贈焉者有以詩歌文章送焉者余不
 堪感激每思至于此不覺涕淚之沾襟也明治二十三年十月十七日瀛船



豐川丸將去甲浦時外山人安達常正撰筆

留別職員諸君

拙稿

空伴群英莫小成匆匆豈忍就行程吸江之水桂濱月早晚何邊談舊盟

留別生徒諸子

同

王臣蹇々固匪躬何說天涯西與東臨別期君成業日同爲邦家盡寸衷
飄然去此路迢々何日復聽琴瑟調十市櫻風十月雨永存印象不能消

余將轉任於廣島縣生徒中故捉真影以贈余者實七十有四人也余不
堪感喜之情別製一匣收之永以爲交際之友因題其蓋

同

德智修來兼體美國民教育此成功他年大業誰當任唯在瑣々一匣中

諸友に残せる寫眞の裏に

同

行別れ親しき友の國なれば面影たにもこゝにとめて
生徒の催ふされし舟遊の時 同

月水もいかはかりかは色増さん君に別る、舟にあらねは

安達盟兄奉命將榮轉於廣島縣君之來遊此地終始共臭味交情日密矣
均是羈中人而君今北征向山陽臨別不堪春々之情也聊步玉韻布鄙意

云

辱知弟剛拜 上野教諭

離曲聲中班馬鳴秋風明月照愁情江山光景寧雖異勿貳眞誠舊好盟

送別

信嗣 松永教諭

素是訂盟情水魚何須兒女恨離居江流雖有一條隔我輩同遊君莫疎
庚寅之秋日送安達君赴藝州奉和玉韻

藝華居士迂尙 西川助教諭

匹馬匆匆行李成飄然復上白雲程一抔同酌招賢閣我亦鏡川鷗鷺盟

送別

芳水 横田舍監

陽關唱罷奈難留一醉送君南國秋今日江頭相別後長天碧海望悠悠

同

練渡 今村舍監

今日孤亭設別筵秋風颯々意悽然山川遠隔浦門路不識明朝到奈邊

述懷 次韻

隨風道人 福井高知縣尋常中學校長

不談早成與晚成萍身何處問行程吸江之水桂濱月亦是當年舊締盟

安達大人を送りまつりて 尙功 村岡學校長

わかれてもまたあふ事のありなからさみか袂を惜む今日かな

同 となみ 山村教頭

このみちのためにしあれば別れてもふかくは君を惜まさらまし

同 小一郎 永沼教諭

かつうらの濱に生ふてふはまかつら君か舟出をしはしと、めよ

同 道之助 上野教諭

わかれてもまた逢ひぬらむ嚴島いつか尋ねんもとの契りを

同 珍磨 依岡幹事

さみにけふよしわかれても敷島の國のをしへのみちなはなれそ

同

實和 西山助教諭

惜まる、わかれはあれどねはやけのみことかしこみ行きませや君

同

茂實 横田舎監

と、まるもゆくもれなしき國のためをしへの道にいそしめやさみ

と、むへきせさしなければ君をやりてまたのちきりをたのむ別れ路

生徒の送れる文に添へて 同

學ひ子か心盡しの文なれば君もあはれとくりかえし見よ

安達先生を送りまつりて いはを 西川第四年女生

いたつきをなほさん爲の旅なれば思へど糸こそと、めさりけれ

幾千里海山遠くへたつとも君かめくみをいかて忘れん

わたつらみにくらへてもなほ及はしな教の親の深き恵は

同 くに子 岡上第四年女生

數々の深き理りさとりしはさみか教の恵にそよる

同

としき 來正第四年女生

六

いつまでも學の道をたのまんとおもひし君か旅ころもかな
目出度も土佐の波路をとき出て、末廣島にさかへゆくらん

別後の情を寄せて

つる子 磯部第四年女生

はれし夜の月か鏡となるならばかほいろうつし君をねかまん

教の君に呈する寫真に

ちづ子 吉村女子高等師範學校學生

みち遠くあふ事さへもかたければおもかけたにもさ、けまつらん

送安達先生序

第四年生 鈴江國吉、溝淵貞重、名越茂信、

野島伊太郎、小笠長次郎、市川敬夫、田村美實、時忠節、土居正通、田中

元人、近森正相、山崎直猪、谷誠之、津野貞猪、五藤正志、田村信辰、尾崎

定上、田久壽久、保友治、謹白

仙頭賢松、本常次郎

前高知縣尋常師範學校教諭安達先生將赴任於廣島縣爲告別嗟吁聚散離
合世俗之通理也雖然生等受先生之靈陶于茲十又九月臨別欲不悲得乎生
等浴先生之恩澤山高海深先生於數學於理化學最極與鈎玄加以諄々不

倦之教訓雖生等之愚猶且得悟其大意生等之幸何過之幾日先生之爲二豎
所侵也生等尙有不接先生之醫咳失其窮理之日惟恐而頃日先生及力病再
臨校生等之知覺日增加竊以期大成矣然卒然遭今日之悲且及先生告別於
圖書室生等涕淚沾衣殆不能仰視夫尙志短智我縣人之患也今也先生行矣
卽是失智源也不啻生等之不幸亦我縣之不幸也思至于此生等臨別欲不悲
得乎抑先生々於北陸寒地心志沈重也我縣氣候熱濕人情亦大異嗟吁是偶
非促先生之去就乎先生曾曰殺我者是氣候也亦足以卜先生之心事乎果然
生等復何言仰欲訴天々既無情俯叩先生々々志已決矣今也先生去千山萬
水之外欲接先生之恩容於教室不可復得矣矧其談笑乎嗚呼先生行奈生等
何又奈我縣何々幸於彼而不幸於我哉生等臨別欲不悲得乎雖然縣之異同
均吾邦也損于此益于彼得失相償也若強留先生于此或爲加先生之不勝亦
未可知也則是無益於教育也嗟吁聚散離合世俗之通理也伏冀先生察生等
衷情之所存勿以遠近生親疎山河懸絕金風蕭殺之時伏願爲教育白重且永

七

浴郵書垂教之恩聊陳鄙言表離情高知縣尋常師範學校第四年級生徒二十四名謹送

明治二十三年十月十四日

同僚職員及中學校職員諸君の開かれし送別雅宴の時宇賀奥宮今村君等か餘興として催ふされ福引の内今其表題の記憶に存するものを摘録すれば

高知縣士族(鯉魚節)

舍監の眼玉(手帖一冊)

浦戸港の目標(磁製の燈明臺)

蟻の子の従弟(御山杓子)

併用は不賛成(珠盤)

禁酒會への進物(煙草入と煙管)

吸江の景色(長い箸一ツ)

殿中の體罰器械(藤倉草履)

天狗のキッス(花合せ)

誰か妻君の御手に取る(梭)

味噌及葱(式紙)

何處の山に妻を戀けん(鹿毛筆)

日本三景の(一)箸立)

高陽の一酒徒(大徳利)

御茶の間の監督(蛭子大黒)

大磯のたかやめ(手行燈)

徳不孤必有隣(徳利と杯)

裾野の功名(モ一ツ)

千里獨行(郵便はがき)

安達(足立と國音相近し)君への進物(不倒翁)

其他猶數々ありしも愈出て、愈奇ならざるなく舍監に舍監の眼玉か當り上戸の入り「徳不孤必有隣」か當り下戸の方に「禁酒會への進物」か當り又本年縣下の大問題なりし珠算筆算論の直接の衝に當れる附屬の訓導其人に併用不賛成か當れるのみならず「安達君への進物」か余に當るは偶然とは云へなから天余か脚氣病の全癒を知らせるの吉兆なりとて拍手喝采の聲一時の程休まさりし其時西山君の讀まれし和歌

倒れずにれきあかるてふこの翁きみかあだちの名にもろむかす
此に於て余はいとやすくたちて諸君の厚誼を謝せり

海南の尙友終

明治二十三年十一月十七日印刷
全年二月二十日出版

編輯兼
發行人
廣島縣廣島市國泰寺村百五十八番邸
宮山縣士族
安達常正

印刷人
廣島縣廣島市字細工町七十番邸
阪本活版所
阪本武雄

